○韓国側の資料カード

資料番号	K.Ⅲ-19	資料名	源氏物語団扇二幅屏

絹に金箔と彩色、(縦×横) 181.0×94.0㎝

大坂出身の浮世絵師として有名な長谷川光信(1751～1763)の絵で作った二枚仕立ての屏風である。絵は平安時代の長編小説□源氏物語□の十二場面を描写したもので、一幅ごとに絹の金地に絵を描いた紙本の扇面が六枚ずつ張ってある。第二幅の上段にある団扇絵の一部分に‘光信’という朱文方印が押されている。

本作品は朝鮮後期の通信使を通じて行われた日韓間の絵画交流の具体的な様子を覗うことができる絵である。

資料番号	K.Ⅲ-20	資料名	牧丹図屏風

六幅屏風、紙本彩色、(縦×横) 162.5×409.2㎝

日本狩野派の画家、梅笑師信(1728～1807)が37歳の時に描いた作品である。この屏風の右下にある‘梅笑図’という款書と‘栄信’という朱文方印から作者が分かる。栄信は師信の別名である。屏風には赤く白い牡丹が水の流れる川辺の近くの怪石と一緒に描かれ、典型的な日本の装飾画風の特徴を見せる。
この屏風絵は1763年に日本へ行った通信使を通して朝鮮国王へ贈呈されたもので、朝鮮後期の通信使を通して行われた日韓間の絵画交流の具体的な様子が分かる作品である。